

米国コンテンツ市場調査

マンガ&ライトノベル編

2017年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

目 次

1. 米国コミック出版市場.....	1
1-1 市場の概要	3
1-2 映画 TV 原作としてのアメリカンコミックス	5
2. マンガ市場	8
2-1 マンガ	8
2-2 ライトノベル	16
2-3 電子書籍	18
3. 販売ルート	20
4. 今後の市場予測	21

免責事項

- 1.本調査報告書は、企業等の今後の事業展開に資する内部資料として活用いただくことを目的として提供いたします。本サービスで得た情報を無断で第三者に提供する行為は固くお断りします。転載・翻訳される場合は、必ずジェトロの許諾を得たうえで改変を一切行わず、調査資料等の名称・出所を明示してください。また、引用される場合は、改変を一切行わず当該情報の出所を明示して下さい。万が一、お客様が本規則を遵守せず、紛議が生じたとしても、ジェトロは一切責任を負わず、お客様に損害を賠償していただきます。
- 2.ジェトロは、できる限り情報の正確を期するよう努めますが、最終的な情報利用の採否はお客様の責任と判断によります。
- 3.ジェトロが提供した情報により直接、間接に係わらず生じた結果について、万が一、お客様が不利益を被る事態が生じた場合、ジェトロは一切責任を負いかねます。

禁無断転載

(C) 2017 JETRO

作成者：

日本貿易振興機構（ジェトロ） サービス産業部 クリエイティブ産業課/ロサンゼルス事務所

〒107-6006 東京都港区赤坂1丁目12番32号

Tel. 03-3582-1671 SIC@jetro.go.jp

1. 米国コミック出版市場

1-1 市場の概要

2016年の北米コミック市場の規模は、その前年（2015年）から5%増えた10億8,500万ドル（約1,193億5,000万円¹）となっている。同期の日本国内におけるマンガ及びコミック雑誌市場は、デジタル売上の急伸を受けて売上を拡大し4,454億円²であり、北米市場規模は日本国内市場の約2.68倍となっている。

日本ではプリント版すなわち紙に印刷した出版の落ち込みが続いているが、それを補うようにデジタルコミックが急成長を遂げており、その売上が1,460億円と、紙のマンガ単行本売上1,947億円に迫る勢いである。一方、米国ではアメリカンコミックス、デジタルコミックともに横ばい傾向にあり、グラフィックノベルのみが健闘している。

補足すると、アメリカンコミックスは、コミックブック或はコミックと呼ばれる米国出版形態のひとつで32ページ前後の薄い月刊誌である。スーパーヒーローや犯罪、アクションなどシリアスな物語が多い。グラフィックノベルも米国出版形態のひとつで、もともとは長く複雑な物語で、大人を対象としたコミックで月刊販売されたアメリカンコミックスを採録する場合もあり、日本のマンガはグラフィックノベルに分類されている。

このマンガを含むグラフィックノベルは着実に市場を広げており、4億9,000万ドル（約53億9,000万円）という売り上げを記録して、米国コミック市場全体の過半数に迫る勢いを見せている。特に女性や子供向けのラインナップを拡張しており、これら新しい読者層の獲得が目覚ましい。また、ページ数が多く印刷や装丁が豪華なグラフィックノベルは、コミックに比べ価格帯が高く、購買者一人あたりの消費額が大きいことも売上増加の要因となっている。

アメリカンコミックス及びグラフィックノベルとハリウッド映画の蜜月は依然として続いており、アニメーションと実写の両方でコミックスあるいはグラフィックノベルをベースにした劇場映画は、2014年から2016年まで毎年15本ずつ公開されている。劇場に加え、テレビ各局、ケーブルも軒並みコミックスを原作にした番組を放映しており、近年ではさらにNetflixやHuluなど配信事業者が、積極的に自社コンテンツの開発に取り組み始め、やはり、コミックス原作のオリジナル番組を制作、提供するようになっている。

¹ 1ドル=110円

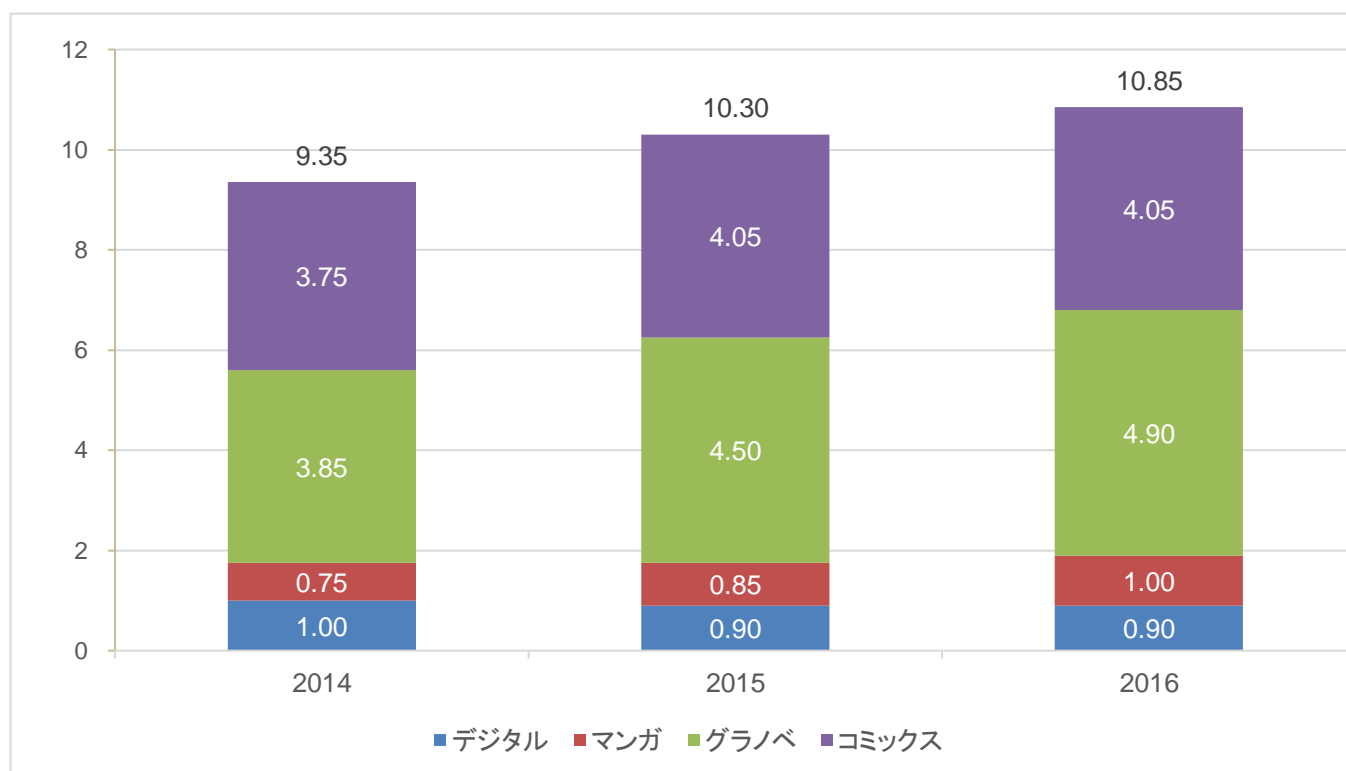
² 出版科学研究所

ハリウッド映画や Netflix、Hulu など配信映画化は、原作となったアメリカンコミックスやグラフィックノベルなどの認知も高まることで、映画からのロイヤルティ収入だけでなく、出版物そのものの販売増にもつながる場合も多く、そこが原作提供側にとってのメリットとなる。

日本のマンガの英語翻訳単行本は、2007 年頃から長期低落傾向にあったが、2012 年を底にして回復基調に入り、「進撃の巨人」、「東京喰種」、「ワンパンマン」などいくつかのヒットタイトルに牽引されたことと、さまざまなデジタル販売への取り組みがようやく功を奏し始め、その売上げが順調に上昇していることから、この数年堅実な成長傾向を見せている。また、小さいながらも日本のライトノベル翻訳出版が市場での存在感を持ち始め、新たなジャンルとして注目を集めている。

(図表 1) 米国コミック・マンガ市場の推移³

(単位：億ドル)



³ Icv2.com, Nielsen Bookscan

年	項目	全体	コミックス	グラノベ	マンガ	デジタル
2014	売上	9.35 億ドル	3.75 億ドル	3.85 億ドル	0.75 億ドル	1.00 億ドル
	占有率	100%	40.1%	41.2%	8.0%	10.7%
2015	売上	10.30 億ドル	4.05 億ドル	4.50 億ドル	0.85 億ドル	0.90 億ドル
	占有率	100%	39.3%	43.7%	8.3%	8.7%
2016	売上	10.85 億ドル	4.05 億ドル	4.90 億ドル	1.00 億ドル	0.90 億ドル
	占有率	100%	37.3%	45.2%	9.2%	8.3%

(注) グラノベはグラフィックノベルの短縮表記

1-2 映画 TV 原作としてのアメリカンコミックス

上述のように、アメリカンコミックス及びグラフィックノベルのハリウッド映画、テレビ局、配信事業者等の映像事業者への原作提供はなおも盛んである。これらの映像化によって原作の知名度が高められ、販売数にも少なからずポジティブな影響を及ぼしている。

米国の映画データ会社ナッシュ・インフォメーションによれば、2014年～2017年の4年間に制作されたコミック及びグラフィックノベルを原作とした映画は毎年10本を超えており、これらが興行収入総売り上げに占める割合は、2017年には20%を超えると予測されている⁴。

また、1995年から2017年に制作されたコミックス及びグラフィックノベル原作の映画の平均興行収入は8,863万ドルと極めて高く、これを上回る原案由来ジャンルはスピンオフしかない。しかもスピンオフには、コミック由来のものが非常に多い。

さらに、テレビ界でも原作ソースとして非常に重宝され、毎年10番組以上がコミックスあるいはグラフィックノベルを原作原案にして作られている。Nielsen 発表の18-42歳の視聴率ランキング上位100の中には、コミックスあるいはグラフィックノベルを原作とする番組が10本ランクインしている⁵。また、Parrot Analytics社がSNSでの言及回数や、バリューの度合いを基に、独自の計算式で人気度を図るダイヤモンド・エクスペッション指標によると、2016年世界で最も人気のあったテレビ番組トップ20のうち、7つはコミックス、グラフィックノベル、日本のマンガを原作にしたものである⁶。

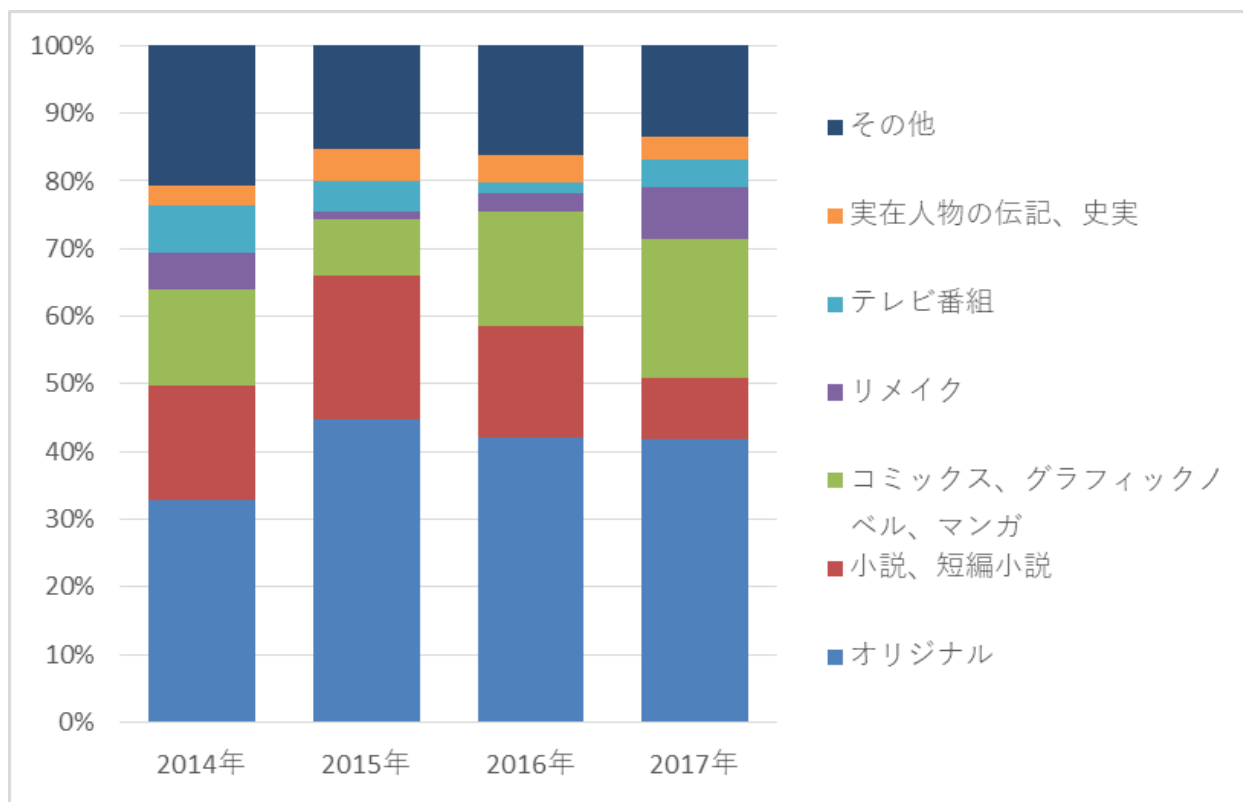
⁴ Nash Information “The Numbers”

⁵ Nielsen Media Research

⁶ Parrot Analytics

こうした傾向は今後も続くと思われる、Netflix は日本マンガ原作、原案の番組制作にも乗り出しつつある。Hulu も独立系のコミック出版社 IDW が出している人気グラフィックノベル・シリーズ『Lock & Key』のパイロットを正式に発注したと 2017 年 4 月に伝えられている⁷。

(図表 2) ハリウッド映画の原作・原案の由来別興行収入シェア 2014-2017 年⁸



⁷ IDW 社発表：

<http://www.idwpublishing.com/deadline-hollywoodlocke-key-drama-from-carlton-cuse-joe-hill-idw-gets-hulu-pilot-order-scott-derrickson-to-direct/>

⁸ Nash Information “The Numbers”

原作・原案由来	2014年	2015年	2016年	2017年
オリジナル	32.9%	44.8%	42.0%	41.9%
小説、短編小説	16.8%	21.1%	16.5%	9.0%
コミックス、グラフィックノベル、マンガ	14.2%	8.5%	16.9%	20.6%
リメイク	5.5%	1.0%	2.8%	7.7%
テレビ番組	6.9%	4.5%	1.6%	4.0%
実在人物の伝記、史実	3.1%	4.8%	4.1%	3.3%
その他	20.6%	15.3%	16.1%	13.5%

(注) 2014/01/06-2018/01/07 に米国内で商業公開された映画の原作・原案の割合。

(図表3) ハリウッド映画原作・原案由来上位6分野の全米公開映画本数 2014-2017年⁹

原作・原案由来		2014年	2015年	2016年	2017年
	年間公開本数	119	120	136	125
オリジナル	本数	39	54	57	52
	%	32.9%	45.3%	42.1%	41.5%
小説、短編小説	本数	20	26	22	11
	%	16.9%	21.4%	16.5%	8.8%
コミックス、グラフィックノベル、マンガ	本数	17	10	23	25
	%	14.3%	8.6%	16.9%	19.8%
リメイク	本数	6	2	4	11
	%	5.4%	1.1%	2.9%	9.0%
テレビ番組	本数	8	5	2	3
	%	6.9%	4.4%	1.7%	2.7%
実在人物の伝記、史実	本数	4	6	5	5
	%	3.2%	4.8%	4.0%	3.9%

⁹ Nash Information “The Numbers”

(図表 4) 2015-2016 年米国 18-49 歳視聴率トップ 100 にランク入りしている
コミックス、グラフィックノベル原作¹⁰

[] 放送局

順位	番組	視聴率
1	The Walking Dead [AMC]	9.6
11	Fear the Walking Dead [AMC]	3.6
20	Talking Dead [AMC]	3
35	Lucifer [Fox]	2.6
39	Supergirl [CBS]	2.5
43	Gotham [Fox]	2.4
50	The Flash [The CW]	2.2
54	Marvel's Agents of S.H.I.E.L.D. [ABC]	2.1
96	Preacher [AMC]	1.6
100	Arrow [The CW]	1.5

¹⁰ Nielsen Media Research

(図表 5) DE (Demand Expression) 指標による 2016 年世界の人気テレビ番組上位 20¹¹

順位	番組	DE/day	原作	放送
1	Game of Thrones	7.2 million	小説	HBO
2	The Walking Dead	4.7 million	グラノベ	AMC, FOX
3	Pretty Little Liars	3.8 million	小説	ABC
4	West World	3.5 million	映画	HBO
5	The Flash	3.1 million	コミックス	CW
6	The Big Bang Theory	2.9 million	オリジナル	CBS
7	The OA	2.8 million	オリジナル	Netflix
8	Stranger Things	2.5 million	オリジナル	Netflix
9	Running Man	2.4 million	オリジナル	韓国
	Suits	2.4 million	オリジナル	USA
11	The Arrow	2.1 million	コミックス	CW
	Quantico	2.1 million	オリジナル	ABC
13	Teen Wolf	2.0 million	オリジナル	MTV
14	One Piece	1.9 million	マンガ	日本
	Gotham	1.9 million	コミックス	FOX
16	The Vampire Diaries	1.8 million	小説	CW
	Marvel's Luke Cage	1.8 million	コミックス	Netflix
	Naruto 疾風伝	1.8 million	マンガ	日本
19	Vikings	1.7 million	オリジナル	History
	Mr. Robot	1.7 million	オリジナル	USA

¹¹ Parrot Analytics

2. マンガ市場

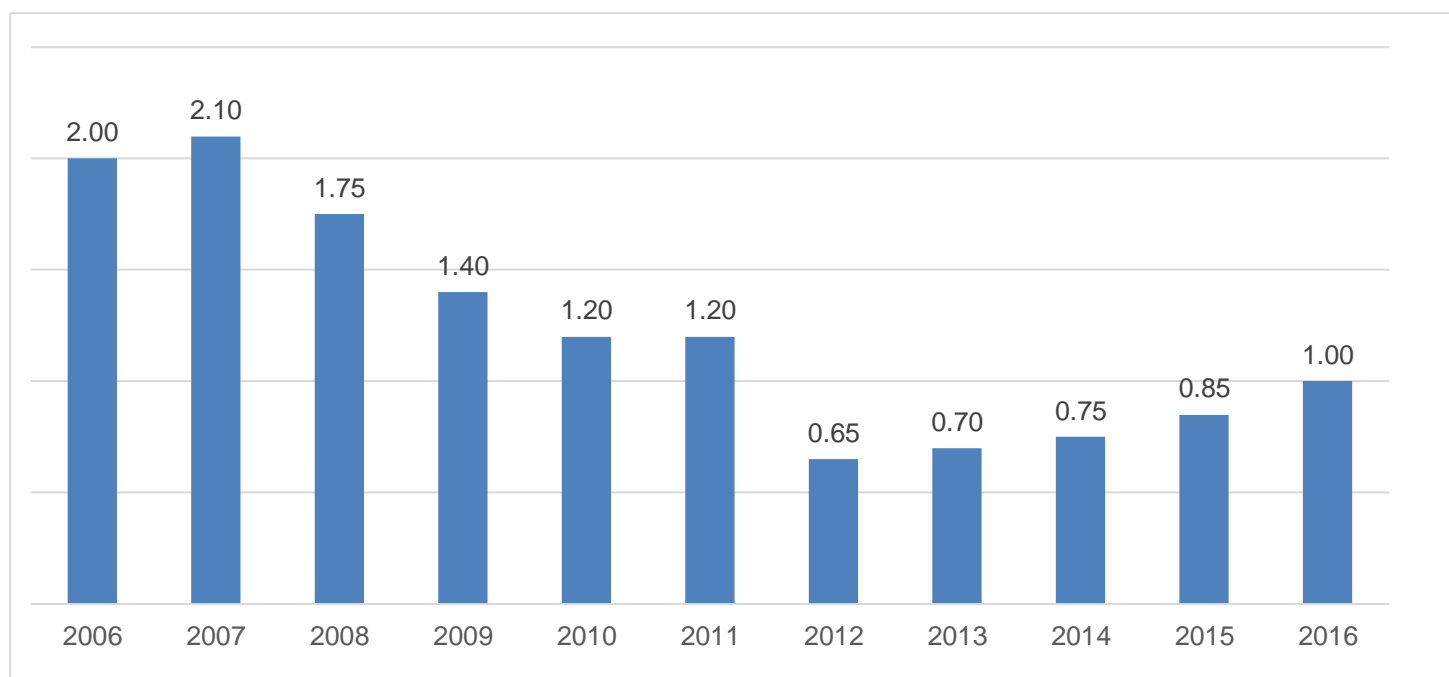
2-1 マンガ

2008 年以降減少を続けていた北米マンガ市場（単行本）は、2012 年を底に回復傾向を見せており、この傾向は数年続いている。ピークであった 2007 年の 2.1 億ドルにはまだ届かずその半分にも満たないが、少なくとも 1 億ドルあたりまで回復してきたと推定されている。

しかし、依然として幾つかの特定人気タイトルに依存した市場回復であり、2014 年はトップ 20 のうち過半数以上の 12 点を『進撃の巨人』シリーズが占めるというほぼ独占状態となっていた。ただ、2015 年、2016 年には少ないながらも、いくつかの息の長そうな人気作品が登場しており、販路の確立を始めとした健全な市場の成長に必須な要素が充実していけば、2007 年規模までの回復が近い将来に望められると思われる。販路の一つとしては、ここ数年デジタルへの出版社各社の取り組みが徐々に功を奏し始めており、今後さらなる発展が見込まれる。

（図表 6）北米に於けるマンガの推定市場規模 2006-2016 年¹²

（単位：億ドル）



以下に NPD（旧 Nielsen）の Bookscan が発表した、2014 年から 2016 年の米国マンガ単行本トップ 20 を紹介する。翻訳マンガに限らずコミックス、グラフィックノベルの販路は、個人経営のコミックショップやホビーショップと大手の書店の 2 つである。Bookscan はこのうち大手

¹² Icv2, Nielsen Bookscan

書店のみ、しかも書店全体の 85%しか販売データをカバーしていないため、売上に関しては実際の数字より少なくなっているが、マンガに限るのであれば、大手書店での売り上げが 90%近くを占めているため、Bookscan の数字は限りなく現実に近いと言える。

(図表 7) マンガ販売数上位 20 タイトル (2014 年) ¹³

順位	タイトル		出版社	売上部数	売上額
	英題	原題			
1	ATTACK ON TITAN 1	進撃の巨人第 1 巻	KODANSHA COMICS	54,520	\$599,174.80
2	ATTACK ON TITAN 2	進撃の巨人第 2 巻	KODANSHA COMICS	37,266	\$409,553.34
3	ATTACK ON TITAN 3	進撃の巨人第 3 巻	KODANSHA COMICS	28,342	\$311,478.58
4	NARUTO VOL 64	ナルト第 64 巻	VIZ MEDIA	26,297	\$262,707.03
5	ATTACK ON TITAN 10	進撃の巨人第 10 巻	KODANSHA COMICS	25,747	\$282,959.53
6	NARUTO VOL 65	ナルト第 65 巻	VIZ MEDIA	25,122	\$250,968.78
7	ATTACK ON TITAN 9	進撃の巨人第 9 巻	KODANSHA COMICS	24,822	\$272,793.78
8	NARUTO VOL 66	ナルト第 66 巻	VIZ MEDIA	22,980	\$229,570.20
9	ATTACK ON TITAN 11	進撃の巨人第 11 巻	KODANSHA COMICS	22,906	\$251,736.94
10	ATTACK ON TITAN 4	進撃の巨人第 4 巻	KODANSHA COMICS	22,047	\$242,296.53
11	ATTACK ON TITAN 12	進撃の巨人第 12 巻	KODANSHA COMICS	19,555	\$214,909.45
12	ATTACK ON TITAN 5	進撃の巨人第 5 巻	KODANSHA COMICS	19,440	\$213,645.60
13	ATTACK ON TITAN NO REGRETS 1	進撃の巨人悔いなき選択第 1 巻	KODANSHA COMICS	19,354	\$212,700.46
14	ATTACK ON TITAN 8	進撃の巨人第 8 巻	KODANSHA COMICS	18,402	\$202,237.98
15	ATTACK ON TITAN 6	進撃の巨人第 6 巻	KODANSHA COMICS	17,777	\$195,369.23
16	FAIRY TAIL 1	フェアリーテイル第 1 巻	KODANSHA COMICS	17,198	\$189,006.02
17	BLUE EXORCIST V1	青の祓魔師第 1 巻	VIZ MEDIA	17,067	\$170,499.33
18	BLACK BUTLER V1	黒執事第 1 巻	YEN PRESS	16,582	\$215,566.00
19	SWORD ART ONLINE AINCRAD MANGA	ソードアートオンライン・アインクラッド	YEN PRESS	16,376	\$327,520.00
20	ATTACK ON TITAN 7	進撃の巨人第 7 巻	KODANSHA COMICS	16,207	\$178,114.93

¹³ Nielsen Bookscan Top750(2014)

(図表 8) マンガ販売数上位タイトル (2015 年) ¹⁴

順位	題名		出版社	売上 部数	売上額
	英題	原題			
1	TOKYO GHOUL V1	東京喰種トーキョーグールー 第 1 巻	VIZ	50,541	\$656,527.59
2	ATTACK ON TITAN 1	進撃の巨人第 1 巻	KODANSHA	34,107	\$374,835.93
3	TOKYO GHOUL, V2	東京喰種トーキョーグールー 第 2 巻	VIZ	30,110	\$391,128.90
4	ONE-PUNCH MAN, V1	ワンパンマン第 1 巻	VIZ	28,371	\$283,426.29
5	THE LEGEND OF ZELDA: A LINK TO THE PAST	ゼルダの伝説神々のトライフ ォース	VIZ	26,756	\$534,852.44
6	NARUTO, VOL. 72	ナルト第 72 巻	VIZ	23,807	\$237,831.93
7	DEATH NOTE BLACK EDITION, VOL. 1	デスノートブラック第 1 巻	VIZ	23,730	\$355,712.70
8	NARUTO, VOL. 70	ナルト第 70 巻	VIZ	23,340	\$233,166.60
9	FAIRY TAIL V01	フェアリーテイル第 1 巻	KODANSHA	22,541	\$247,725.59
10	NARUTO, VOL. 71	ナルト第 71 巻	VIZ	20,437	\$204,165.63
11	BLACK BUTLER, VOL. 1	黒執事第 1 巻	YEN PRESS	20,125	\$261,625.00
12	TOKYO GHOUL, VOL. 3	東京喰種トーキョーグールー 第 3 巻	VIZ	19,814	\$257,383.86
13	POKEMON BLACK & WHITE POCKET C	ポケモンブラック・ホワイト	VIZ	19,759	\$197,392.41
14	ATTACK ON TITAN 2	進撃の巨人第 2 巻	KODANSHA	19,108	\$209,996.92
15	NARUTO, VOL. 69	ナルト第 69 巻	VIZ	18,667	\$186,483.33

¹⁴ Nielsen Bookscan Top750 (2015)

16	ATTACK ON TITAN 15	進撃の巨人第 15 巻	KODANSHA	18,633	\$204,776.67
17	ASSASSINATION CLASSROOM, V1	暗殺教室第 1 巻	VIZ	18,532	\$185,134.68
18	ONE-PUNCH MAN, V2	ワンパンマン第 2 巻	VIZ	18,065	\$180,469.35
19	BIG HERO 6, VOL. 1	ビッグヒーロー6 第 1 巻	YEN PRESS	15,977	\$191,724.00
20	BLUE EXORCIST, VOL 1	青の祓魔師第 1 巻	VIZ	15,898	\$158,821.02

(図表 9) マンガ販売数上位タイトル (2016 年)¹⁵

順位	題名		出版社	売上 部数	売上額
	英題	原題			
2	ONE-PUNCH MAN, VOLUME 1	ワンパンマン第1巻	VIZ MEDIA	48769	\$487,202.00
3	AWKWARD	(オリジナル作品)	YEN PRESS	45385	\$499,235.00
4	POKEMON ADVENTURES RED & BLUE	ポケットモンスター Special 赤・緑・青編	VIZ MEDIA	38137	\$2,097,154.00
5	TOKYO GHOUL, VOLUME 2	東京喰種トーキョーグー ラー第2巻	VIZ MEDIA	37108	\$482,033.00
6	TOKYO GHOUL, VOLUME 5	東京喰種トーキョーグー ラー第5巻	VIZ MEDIA	33281	\$432,320.00
7	ONE-PUNCH MAN, VOLUME 2	ワンパンマン第2巻	VIZ MEDIA	32580	\$325,474.00
8	TOKYO GHOUL, VOLUME 3	東京喰種トーキョーグー ラー第3巻	VIZ MEDIA	31618	\$410,718.00
9	ONE-PUNCH MAN, VOL. 4	ワンパンマン第4巻	VIZ MEDIA	29887	\$298,571.00
10	NARUTO: THE SEVENTH HOKAGE AND SCARLET SPRING	ナルト- 外伝 ~七代目 火影と緋色の花つ月~	VIZ MEDIA	29768	\$297,382.00
11	TOKYO GHOUL, VOLUME 4	東京喰種トーキョーグー ラー第4巻	VIZ MEDIA	29504	\$383,257.00
12	TOKYO GHOUL, VOLUME 6	東京喰種トーキョーグー ラー第6巻	VIZ MEDIA	27724	\$360,135.00

¹⁵Nielsen Bookscan Top750(2016)

13	ONE-PUNCH MAN, VOL. 3	ワンパンマン第3巻	VIZ MEDIA	27429	\$274,016.00
14	DEATH NOTE BLACK EDITION, VOL.1	デスノート・ブラック第 1巻	VIZ MEDIA	25727	\$385,648.00
15	ATTACK ON TITAN 1	進撃の巨人第1巻	KODANSHA	25670	\$282,113.00
16	ONE-PUNCH MAN, VOL. 5	ワンパンマン第5巻	VIZ MEDIA	24985	\$249,600.00
17	TOKYO GHOUL, VOLUME 7	東京喰種トーキョーグー ルー第7巻	VIZ MEDIA	23348	\$303,291.00
18	FAIRY TAIL V01	フェアリーテイル第1巻	KODANSHA	23204	\$255,012.00
19	BLACK BUTLER, VOLUME 1	黒執事第1巻	YEN PRESS	21712	\$282,256.00
20	ASSASSINATION CLASSROOM 1	暗殺教室第1巻	VIZ MEDIA	20062	\$200,419.00

次頁は米国における、コミックス（アメリカンコミックス、グラフィックノベル、マンガ含む）の大手流通業者ダイヤモンド・ディストリビューター社が発表している出版社別売上シェア。マンガ出版では VIZ Media 社、Kodansha USA（Random House との提携により取次流通は Random House 社が行っている）、Yen Press（Hachette のグラフィックノベルインプリント）がランクインしている。

(図表 10) 米国コミック (アメリカンコミックス、グラフィックノベル、マンガ)
 売上シェア (2016 年) ¹⁶

出版社	シェア
MARVEL COMICS	38.74%
DC ENTERTAINMENT	25.75%
IMAGE COMICS	9.93%
IDW PUBLISHING	5.59%
DARK HORSE COMICS	3.79%
BOOM! STUDIOS	2.28%
DYNAMITE ENTERTAINMENT	1.99%
TITAN COMICS	1.03%
EAGLEMOSS PUBLICATIONS	0.94%
VIZ MEDIA	0.93%
ARCHIE COMIC PUBLICATIONS	0.87%
AVATAR PRESS INC	0.86%
VALIANT ENTERTAINMENT LLC	0.85%
ONI PRESS INC.	0.82%
RANDOM HOUSE	0.69%
ZENESCOPE ENTERTAINMENT	0.48%
FANTAGRAPHICS BOOKS	0.37%
ACTION LAB ENTERTAINMENT	0.32%
ST. MARTINS PRESS	0.31%
HACHETTE BOOK GROUP USA	0.31%
その他	3.12%

¹⁶ Diamond Distributors

2-2 ライトノベル

日本独自の小説ジャンルのライトノベルは、中高生を中心に日本で人気伸び、今や一大ジャンルとなっている。米国で日本のマンガを許諾翻訳している出版社の多くもここ数年、このジャンルに注目し始めている。

米国マンガ出版最大手の小学館と集英社の系列会社でもある VIZ Media が 2009 年に HIKASORU レーベルで SF ジャンルのライトノベル出版を開始したが、米国市場での最初の本格的な取り組みと言えるだろう。VIZ はその後 SF 以外のジャンルのライトノベルも手掛けるようになってきている。また、2014 年に Yen Press が Yen On と名付けたライトノベル専門インプリントと呼ばれる社内レーベルを立ち上げ、年間 20~30 点のライトノベルを出版している。さらに講談社系列の Vertical、独立系のマンガ出版社 Seven Seas、新規参入の Cross Infinite World、同じく新規で定額読み放題サービスを提供している J-Novel Club などが続々とライトノベルの英訳出版を始めている。

出版社以外にも電子書店 BookWalker や電子書籍レンタルの Renta!などが、マンガやライトノベルの英語版を直接販売し始めており、ここにも今後ライトノベルの販路となりえる可能性がありそうだ。

まだ市場と呼ぶほどの規模には達していないが、これらの取り組みがあと数年続けばおそらく一定の読者層の獲得へとつながり、ある程度の市場として存在感を示す可能性が高い。

<現在米国でライトノベルの翻訳出版・販売を行っている会社>

VIZ Media: <https://www.viz.com/>

北米マンガ出版社最大手。小学館、集英社、小学館集英社プロダクションの関連会社。出版物のほとんどはマンガだが、ここ数年主にマンガやアニメで認知の高い作品に関連したライトノベルの出版数も増えている。

Haikasoru : <https://www.viz.com/haikasoru>

VIZ Media のインプリント。日本の SF、ホラーに特化した小説の翻訳出版を行っている。

Yen On: <http://yenpress.com/yen-on/>

Yen Press はフランスに本拠を置く巨大グローバル出版社 Hachette のグラフィックノベル部門としてスタート。昨年、日本の KADOKAWA と Hachette の合併会社となっている。Yen On はライトノベルのみの社内レーベル（インプリント）。

Vertical: <http://www.vertical-inc.com/>

講談社の関連会社。もともと日本の文化に関連した書籍（マンガも含む）の翻訳出版を行っていたため、ライトノベルには早くから取り組んでいる。主に講談社のライトノベル、あるいは同社のマンガやそれらを原作とした人気アニメに関連したライトノベルを出版している。

Cross Infinite World : <http://www.crossinfworld.com/>

2015年設立の翻訳出版会社。デジタル出版のみ。マンガ3シリーズ、ライトノベル5シリーズの許諾を受けて、翻訳出版している。

J-Novel Club: <https://j-novel.club/top>

2016年設立の会社。日本に本拠を置く。ライトノベルのみに焦点をあて許諾を受け、英語版をデジタル出版し、毎月定額の料金を払った会員に毎週新しCHAPTERの英訳を届けるというサービスを実施している。会員費は月\$5あたり。

BookWalker Global: <https://global.bookwalker.jp/>

KADOKAWA 直営の電子書店 BookWalker の英語版ストア。KADOKAWA が Yen Press に出資している関係で、YenOn からのライトノベルが売られている。それ以外にも BookWalker 独自で許諾を得た作品の英語版を販売している。

Renta! : <http://www.ebookrenta.com/renta/>

主にマンガの電子版レンタルを提供している日本の Renta! の英語版。独自に許諾を受けたマンガや小説の英語版をレンタルしている。

2-3 電子書籍

米国デジタルコミック市場は横ばい状態だ。2009年の年間売上高100万ドルから、わずか4年の2013年には9000万ドルと、約90倍の急成長を遂げたが、その後横ばい傾向になり、ここ2年ほどは、ちょうど1億ドル近辺でとどまっている。ただ、この数字はダウンロード販売だけで、月額会費を支払う定額読み放題サービスが含まれていないため、実際の市場規模はもう少し大きいと推測される。コミックのデジタルストアは2014年にアマゾンに買収された老舗の米国電子書店 comiXology が圧倒的な最大手である。comiXology が扱うマンガは当初 VIZ のみだったが、この2年ほどで Kodansha、Yen Press、Seven Seas、Udon Entertainment が加わり、米国において日本のマンガを許諾翻訳している出版社のほぼ全てが作品を卸している。

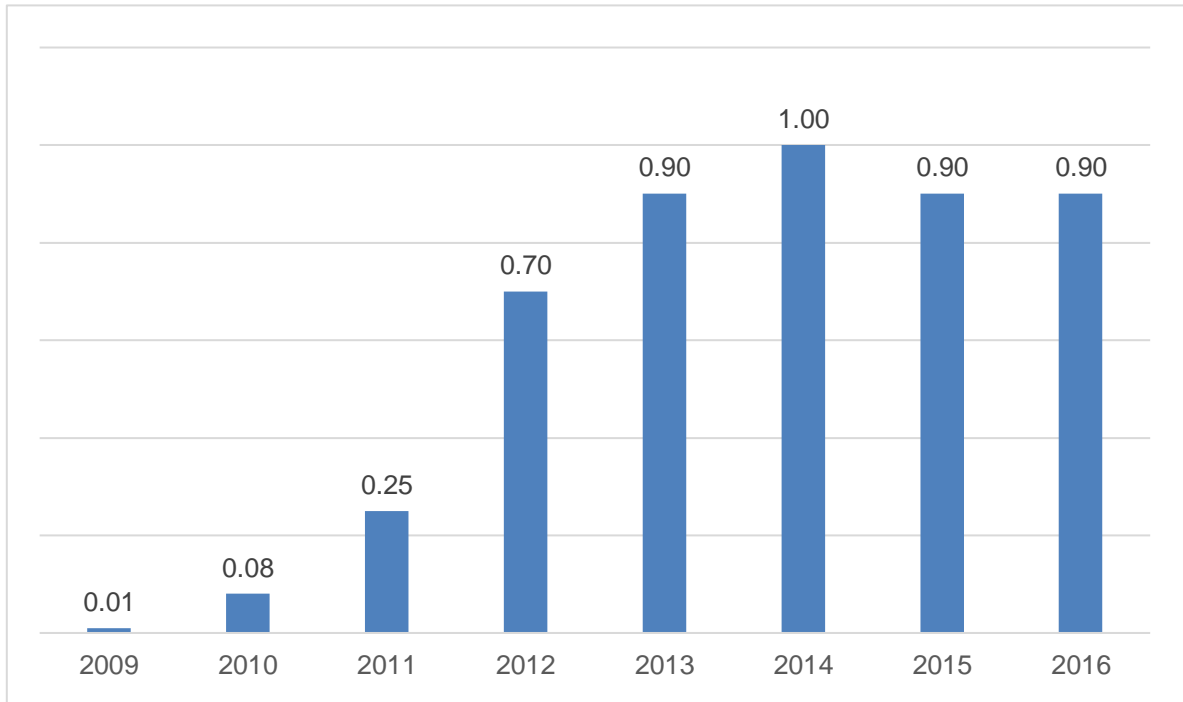
comiXology 以外にも各出版社が独自に電子書籍を販売したり、アニメ配信業者の Crunchyroll などがマンガ販売を行っており、コミックス全般では足踏み状態にあるデジタルだが、マンガに限っていえば上向きと思われる。上述のように KADOKAWA 直営の BookWalker Global や日本のパピレスが経営する Renta! なども積極的にマンガの販売を行うとみられ、日本のマンガのデジタル販売市場は、今後も成長が期待できると言える。

デジタルで販売やレンタルされた作品のうち、人気の高い作品のプリント版も販売する試みも行われている。デジタルというハードルの低いところから新しい読者層の開拓につながっているようだ。これらの施策が、今後新しい販路や読者層の開拓に繋がり、米国マンガ・ライトノベル市場の成長を促していくと期待される。VIZ、Kodansha、Yen Press とともに現在、一部の作品において日本語と英語の同時リリースを実施している。これもデジタルでこそ可能なことと言える。

違法な海賊版対策として有効であるのみならず、日本語と同時か、日本語版リリースの直後に英語版を読みたいという熱心なファンの要求を満たしていることから、アニメの世界同時配信と同じように、デジタルでの日英同時リリースは増えていくであろうと思われる。

(図表 11) 米国デジタルコミック市場の推移¹⁷

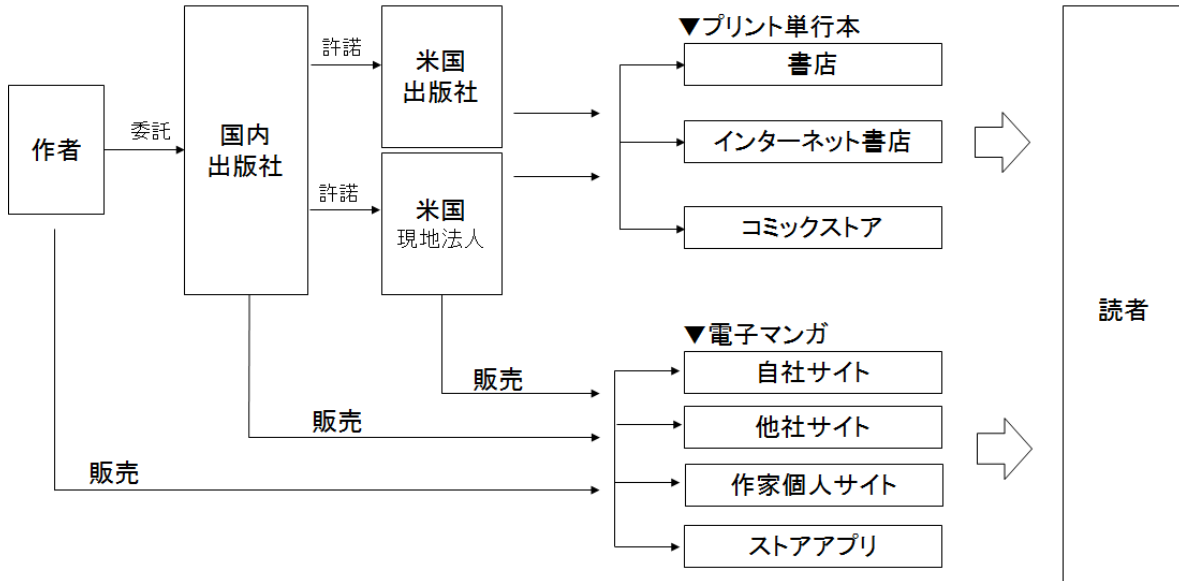
(単位：億ドル)



¹⁷ Icv2

3. 販売ルート

(図表 12) マンガの販売ルート



(図表 13) 米国でマンガ関連の取引実績のある出版社

出所：独自調査

社名	URL
Dark Horse Comics	www.darkhorse.com
DC Comics	www.dccomics.com
Digital Manga Inc	www.digitalmanga.com
Drawn & Quarterly	www.dawnandquarterly.com
Fantagraphics Books	www.fantagraphics.com
Yen Press LLC (Hachette & KADOKAWA)	www.yenpress.com
IDW Publishing	www.idwpublishing.com
Image Comics	www.imagecomics.com
Kodansha USA Publishing LLC	http://kodanshacomics.com/
Marvel Publishing, Inc	http://marvel.com
Penguin Group USA	http://us.penguingroup.com
Seven Seas Entertainment	www.gomanga.com
Udon Entertainment	www.udonentertainment.com
Vertical Inc	www.vertical-inc.com
VIZ Media LLC	www.vizmedia.com

4. 今後の市場予測

マンガ市場：

米国に於ける日本のマンガ市場、すなわちプリント版単行本の売上高は 2012 年以降ゆるやかな回復傾向が続き、2016 年は 1 億ドルとなった。タイトルとしては、Netflix や Hulu、Amazon など配信されている「進撃の巨人」や「東京喰種トーキョーグールー」「ワンパンマン」などアニメ作品の原作マンガが上位を占めている。(図表 7~9 参照) 日本のマンガそのものの価値が再評価されているというよりは、パワフルなアニメ配信の拡大にともなって、アニメ利用者にも原作マンガの購読意欲が喚起され、需要を拡大していると思われる。

2016 年には 1 億ドルの売上まで回復したとはいえ、2007 年の 2 億 1 千万ドルに到達するのは容易ではないだろう。その理由は以下の通りだ。

当社が 2011 年に San Diego コミックコンベンション会場で実施したマンガ利用者アンケートで、マンガ読経験のある 216 名を対象にマンガ購読のための有益な情報源を質問したところ、第 1 位は家族、友人。第 2 位は書店、第 3 位がブログやコミュニティサイトであった。マンガファンは、よく知っている人からの「口コミ」や単行本を手にとって情報を収集する傾向が強いという結果がでている。

ところが、日本と同様に米国でも店舗型のリアル書店の減少が続いている。米国出版業界の専門ニュース publishersweekly.com によれば、1991 年には米国内に 13 店舗以上を展開する大型書店チェーンが 11,300 店舗であった。ところが 2017 年には同規模の書店チェーンは 5 となり店舗数も 1,076 店舗に減少しているという。¹⁸

2011 年に米国内に 500 店舗を展開していた書店チェーンのボーダーズ・グループが連邦破産法第 11 条を申請し、経営破綻した。ボーダーズは早い時期から英語翻訳した日本のマンガを店頭販売しており、米国における日本のマンガ市場育成に果たした役割は大きい。業界関係者のインタビューでは、2005 年頃に米国で日本のマンガを手掛ける米国出版社から、同社のマンガ販売の 8 割以上がボーダーズ経由であったとの情報もある。数字はともかく、特定の書店への依存度が高く、その経営破綻が市場全体にネガティブインパクトを与えたことは間違いない。2007 年以降、経営不振による店舗縮小があり、2011 年に経営破綻の翌年は売上高が前年比 ▲46%と落ち込む結果となった。

アマゾンなどオンラインストアの存在が大きくなろうとも、やはりボーダーズが無き今、店舗

18

<https://www.publishersweekly.com/pw/by-topic/industry-news/bea/article/73837-bookexpo-2017-amazon-will-be-the-fifth-largest-bookstore-chain.html>

型リアル書店の販路開拓が課題であり米国でマンガを出版する各社はボーダーズが消失したあとの販路開拓への試行錯誤が続いている。

現在、米国で日本のマンガを出版するマンガ出版社や日本の大手出版社は、世界規模の大手出版社のグループ会社または業務提携を強めている。

小学館、集英社のグループ会社である VIZ Media は Simon Schuster、Yen Press は Hachette、Seven Seas は McMillan、講談社米国法人は Random House と提携している。また KADOKAWA は 2016 年に前述の Hachette からマンガとライトノベル英語出版事業を買収し、Yen Press と合併で新会社を設立している。このような米国大手出版社との提携は、今後あらたな販路開拓を容易とし、回復基調の継続に寄与すると考え得る。

デジタル販売の可能性：

現在のところ、アニメにおける Netflix やクランチロールのような、市場全体を牽引するプラットフォームがマンガには存在していない。

電子版の場合、米国出版社の自社販売サイトを經由したダイレクト販売、楽天が運営する Rakuten Kobo、2014 年にアマゾンの子会社となったアメリカンコミックを含む米国ポップカルチャー系の電子書籍配信プラットフォームの ComiXology などの販売ルートがあり、統計データの発表が無い場合、定量的なランキングはできないもののリードする販売ルートは見当たらない。電子の特長は、国境を越えた販売ルートの構築が可能という事もあり、日本の電位書籍販売プラットフォームが英語版をアップすれば参入も可能である。

ただし、前述のようにマンガはアニメとの連動作品の人気の高い。マンガ文化やライトノベルそのものの評価が進み、読者が増えているという面も否定はしないが、商業的に先行投資が必要な段階だと考える。

今後の見通しを立てるポイントは、アニメのクランチロールのような、マンガにおける有力なプラットフォームが登場することが、米国に於けるマンガ、ラノベ市場にとって重要となってくる。

米国内で 100 万人を超える有料会員を持つクランチロールは、同社のサイト内にクランチロールマンガのページを設けてマンガの配信も開始している。

アニメの配信が成長するきっかけとなったヒットサービスが世界同時配信(サイマルキャスト)であったように、新作マンガの日英同時リリースというスピード対応もデジタルでなら可能となる。

前述のように多くのファンをあつめている中核プラットフォームがないため、自社サイトに加

えてクランチロールなどのアニメ配信サイト、ComiXology などのコミック配信プラットフォームなどを経由して、販売チャネルを確保する事がポイントとなる。

コンテンツの多様性：

ようやく回復の兆しが見えてきたマンガ市場だが、まだまだジャンルやフォーマットは画一的だ。近年の売り上げに貢献しているのも、幾つかの超人気タイトルのみである。今後は、もっと多様性のあるコンテンツを提供するような努力が必要となるであろう。

すでに各社、ライトノベルやアートブック、ボックスセット、さらには米国アーティストによるマンガ風ビジュアルの新作制作など様々なものにトライしており、この傾向は今後一層続くと思われる。特にライトノベルは、もともとヤングアダルトというジャンルの人気が高く、その土壌が培われている北米で、大きく化ける可能性を秘めている。各社は想像以上に売り上げの手応えがあったとみえて、将来のライトノベルの出版を発表している。

ジャンルについては、ヒット作はほぼ全て少年、アドベンチャー、SF、クライムとなっている。安定した成長のためには、今後は多様なジャンルの作品を投入し、丁寧なプロモーションとマーケティングで異なる読者層にリーチ出来るような努力を行うことがキーと言える。